

\*\*\*\*\*

「海の生き物を守る会」メールマガジン No.28

2008. 11. 19 (水)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

\*\*\*\*\*

**「今日の海の生き物」 サラサエビ *Rhynchocinetes uritai***

サラサエビ科の海老で、水深 10m 以浅の岩礁地帯に多く棲む。沖縄以北の温帯の海に分布しており、男鹿半島まで見られる。魚の皮膚に棲む寄生虫を食べる習性を持ち、掃除をするエビとして知られる。ウツボなどの大型魚類の口の中や皮膚表面で摂食していることを



見かけることが多い。魚類も掃除を求めて岩礁に寄ってくる。体長は 5cm 未満。身体の様を更紗とみて、サラサエビと名付けられた。

(山口県上関町長島にて 向井 宏撮影)

\*\*\*\*\*

目次 「今月の海の生き物」 サラサエビ

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 当会の現在の活動と予定
3. 活動報告
4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
5. 事務局便り
6. 編集後記
7. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

\*\*\*\*\*

## 1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

**泡瀬干潟の埋め立てに 事実上全面勝利判決！** くわしくは【沖縄】の記事を！

### 【全国】

#### ●密やかに捕鯨船が出航

11月17日午後2時過ぎ、南極海での調査捕鯨に向けて捕鯨船団の母船・日新丸が、瀬戸内海の因島（広島県尾道市）南端、家老渡港近くの埠頭を出発した。今年は昨年まで行われていた派手な出港式などは行わず、出港も公式発表が無く秘密裏に出発した。これは昨年のシー・シェパードなどの妨害行為を避けるために公表しないとしており、密やかに離岸した。

それに先立ち、環境保護団体「グリーンピース・ジャパン」は内閣府大臣官房総務課および水産庁資源管理部遠洋捕鯨班を訪れ、麻生太郎総理大臣と石破茂農林水産大臣に宛てた「南極海鯨類捕獲調査に関する質問書」を提出し、日本の納税者として、昨年まで盛大に行われてきた下関での捕鯨船団の出港式の有無や、日本政府による南極海捕鯨の完全中止決定時期などについて質問した。

#### ●オーストラリア政府が鯨の生態調査

日本の調査捕鯨に反対しているオーストラリア政府は、捕獲しなくても鯨の資源生態調査は可能であることを示すために、鯨の非捕獲調査に乗り出すことを決めた。詳細はまだ不明だが、衛星を利用した移動追跡やDNA採取などによる個体識別や免疫学的な食物調査などが考えられているようである。標識と衛星による鯨の行動追跡は、「グリーンピース」も昨年まで行っていたが、オーストラリア政府による調査研究は初めてである。日本政府は依然として調査捕鯨にこだわっているが、非捕獲による調査が軌道に乗れば、日本の「調

「査捕鯨」が本来は調査を口実にした捕鯨であることが、ますます明らかになるだろう。

## 【東海】

### ●産卵できる環境こそ大事 ウミガメを危機から守るために

三重県紀宝町には、アカウミガメが産卵にあがる砂浜があり、町としてもウミガメの産卵場として観光の目玉と考えている。ここにあるウミガメ公園で働く谷口真理さんがウミガメを守るために行われている卵の保護や人工ふ化、放流事業などの弊害を指摘している。中日新聞から彼女の主張を取り上げてみよう。

「かつては盗掘から守るために、ウミガメの卵を掘り起こし、人工のふ化場に運ぶ必要があった。その経緯に意義はあったが、今ではふ化場ありきの保護になっている。必然的に人間による放流が必要になるが『卵を移動させると、ふ化率が下がる傾向がある。ふ化から放流までに時間が開くのもよくない』と産卵場所でのふ化を進言する。

ただ、放流事業は長年、当たり前のように続けられており、子どもたちの環境教育の一環にもなっている。中止の説得をするのは難しい。だからこそ『ウミガメの危機を多くの人に知ってもらいたい』と力を込める。

同町での年間産卵回数は、20年前の20分の1にまで減少。原因の1つと考えられる砂浜の浸食の調査にも取り組む。「プラスチックをのどに詰まらせて死ぬ個体が多い」との説には疑問を感じ、死骸の漂着についても調べている。『ウミガメをまちおこしに利用するのはいい。ただ、砂浜を大切にしたり、カメのためにできることを、もう一度考えてほしい』『自然に流されるのは仕方ない。ふ化に人の手を加えるのではなく、産卵の環境を整えることが大切』と保護のあり方に問題を投げかける。」

アマモの移植や干潟の耕耘などと同じように、環境を守ると称して誤った「保護」活動が行われている。ウミガメ保護もその一つ。谷口さんの主張は、まさにその核心を突くものだろう。

## 【近畿】

### ●グンバイヒルガオが白浜海岸に生育

和歌山県白浜町瀬戸の番所崎海岸に、南西諸島以南の砂浜に普通に生えているグンバイヒルガオが2株生育していることを瀬戸臨海実験所の元技官の檜山さんが発見した。檜山さんの話では、過去50年間で初めて見たとのこと。黒潮などの海流に乗って南西諸島から種子が流れ着いたと考えられるが、近年の温暖化との関係も示唆される。

白浜海岸には近縁種のハマヒルガオが群落を作っている。ハマヒルガオとグンバイヒルガオの分布の境界は鹿児島と奄美の間にあるが、その境界も北上しつつあるのかもしれない。

## 【沖縄】

## ●泡瀬埋め立て 差し止め判決 実質的な全面勝利

泡瀬干潟の埋め立て開発に反対する沖縄市民ら約 580 人が、沖縄市長と県知事に事業への公金支出の差し止めと、県知事に対して既に支出した 20 億円を当時の稲嶺恵一知事と国に損害賠償請求するよう求めた訴訟の判決が 19 日、那覇地裁であった。田中健治裁判長は、東門美津子沖縄市長が事業計画の見直しを表明していることを踏まえ、「現時点において事業は経済的な合理性を欠く」と指摘。沖縄市長に事業に関する一切の公金支出の差し止めを命じた。

県知事に対しては、埋め立て事業の中心目的がリゾート施設建設を目的とした沖縄市の施策実現にあるとして、県知事に対して判決確定後の公金支出の差し止めを命じた。県知事に対し、稲嶺前知事と国に損害賠償請求するよう求めた訴えは、いずれも退けた。

判決は、原告側がずさんと主張した事業の環境影響評価について「一応の根拠を示した予測がなされている」などとして、法令違反はないと判断する一方で、「不十分な部分が散見される」と指摘した。

総合事務局の調査で生息が確認されなかった種があるほか、サンゴ類やサンゴ礁の生態系に対する予測で「検討が不十分」と判断。トカゲハゼに関する環境影響評価の予測と、その結果を踏まえた検討がなされていないと認めた。

また宿泊需要や企業の進出予測などは、埋め立てが承認された 2000 年当時の経済的な合理性として認める一方で、宿泊需要などの予測で「種々の疑問点が存するといわざるを得ない」と指摘。沖縄市の財政に与える影響についても、民間への売却がスムーズにいかなかった場合に、「大きな影響を与えかねない」と述べた。

稲嶺前知事の当時の支出負担行為には、埋め立ての承認に違法性はないとし、国の損害賠償義務についても、環境影響評価に違法性は認められないとし、いずれも請求を退けた。

【泡瀬干潟】 面積は約 265 ha。貝の上に寄生する巻き貝ニライカナイゴウナなどの新種が見つかっている。1980 年代に干潟の一部を含めた埋め立て構想が浮上。計画を縮小した後、2002 年に着工した。国と県による埋め立て事業費は計約 489 億円。昨年度までに約 199 億円が投入された。沖縄市は昨年 12 月、事業規模を半分に縮小し、既に着工した第 1 区域約 96 ha だけとする意向を表明。一方、国と県は計画通り進める考えを示している。[沖縄タイムズ 2008.11.19 web 版]

## 2. 当会の現在の活動と予定

砂浜海岸生物調査をいっしょにやりませんか

海の生き物を守る会・OWS

海の生き物を守る会では、セブン-イレブンみどりの基金の後援で、NPO法人OWSと共同で今年から全国の砂浜海岸生物調査を実施しています。日本の砂浜を生き物のために取り

戻そうと計画された調査です。調査は誰にでもできる方法で計画されていますので、少しでも多くの方が、多くの海岸でこの調査に参加していただけるようお願いいたします。

ご協力いただける方は、事務局までお申し出ください。方法と調査報告用紙をお送りいたします。なお、方法と調査用紙は希望者にはメールでもお送りします。当会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> にも掲載しています。今月からは、NPO 法人「海守」でもこの砂浜海岸生物調査に参加を呼びかけています。

## 3. 活動報告

### ●良い天気恵まれて田辺湾で自然観察会と講演会

今年度4回目の自然観察会を和歌山県白浜町の京都大学瀬戸臨海実験所近くの番所崎海岸で11月15日に行いました。当日は前日からの雨が上がり、暑いほどの日差しが降り注ぐ絶好の観察会日和でした。秋なので潮の条件があまり良くないので、水族館の見学から始め、海岸では京都大学の久保田信准教授に海岸の生物の説明を受けながら漂着生物や磯の生き



物を観察しました。参加者は約10名。最近発見された一株のグンバイヒルガオも見て、温暖化の影響についても話し合いました。午後からは、京都大学の大久保奈弥研究員による講演「珊瑚礁の保全とその取り組み」、  
「海の生き物を守る会」代表の向井による講演「海

の生き物を守るために」の2題の講演会を行いました。参加者は約30名で、熱心な討議がなされました。



(↑←白浜  
海岸観察会  
の風景)



(講演会のようす)

## 4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

**【関東】**

**●羽田周辺水域環境調査研究 第2回シンポジウム**

**「東京湾の今～多摩川河口域の生態系を知ろう～」**

主催 羽田周辺水域環境調査研究委員会、共催 港湾空間高度化環境研究センター  
土木学会継続教育（CPD）システム <http://www.jsce.or.jp/opcet/cpd.shtml> 登録事業

日時：平成20年11月30日（日）10：00 開演（9：30 受付開始）

場所：ベルサール神保町 3F（〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1）

[http://www.bellesalle.co.jp/bs\\_jimbocho/images/shikihai.html](http://www.bellesalle.co.jp/bs_jimbocho/images/shikihai.html)

プログラム：

開 会 10：00～10：10

主催者挨拶 風呂田 利夫（東邦大学 教授）

講 演

－第1部－ 「羽田周辺水域の環境は今」

1. 「羽田協働モデル- 多分野統合的調査研究による環境把握 -」 灘 岡 和夫（東京工業大学 教授）

2 「貧酸素水塊の発生・発達とその挙動について」 小川 浩史（東京大学 准教授） 八木 宏（水産工学研究所）

3 「多摩川河口とその周辺の生物生息状況と貧酸素水塊形成が生物に与える影響」 風呂田 利夫（東邦大学 教授） 石丸 隆（東京海洋大学 教授）

－第2部－ 「東京湾の水環境の移り変わり、環境再生、市民との環境モニタリング」

4 「東京湾水質の長期変動傾向の解析- 地方環境研と統計数理研の連携による取り組み -」 安藤 晴夫（東京都環境科学研究所）

5 「干潟生物の子供達を知っていますか？- 海洋生態系を回復させるためのひとつの提案 -」 浜口 昌巳（瀬戸内海区水産研究所） 日向 博文（国土技術政策総合研究所） 古川 恵太（国土技術政策総合研究所）

6 「市民が調べた羽田周辺水域環境」 鈴木 覚（海辺つくり研究会 理事）

パネルディスカッション 15：15～16：45

「羽田協働モデル」の構築と「東京湾連携モデル」への展開に向けて

○コーディネーター：風呂田 利夫（東邦大学 教授）

参加費無料（先着200名）

※事前に申込みが必要。「氏名」「住所」「連絡先（電話番号・E-mail）」「所属」を下記の問い合わせ先まで、ご連絡ください。

問い合わせ先：〒108-0022 東京都港区海岸三丁目26-1 パーク芝浦6階

財団法人 港湾空間高度化環境研究センター 港湾・海域環境研究所 環境管理研究部（担当：野副、中島、渡邊） TEL：03-5443-5397 FAX：03-5443-5412 E-mail：haneda@wave.or.jp

## ●第6回サテライトシンポジウム「鯨類研究の前線から」

○と き : 2008年11月30日(日) 10:00-16:00

○ところ : 東海大学代々木校舎 (東京都渋谷区富ヶ谷 2-28-4)

○内容

- ・北大練習船おしよろ丸を使った鯨類目視調査; チャクチ海で目撃したシャチの捕獲行動について 関口圭子 (University of Hawaii at Hilo)
- ・捕鯨と動物福祉—鯨類捕獲調査の倫理的側面—石川 創 (日本鯨類研究所)
- ・[腹びれイルカ続報]「はるか」: 先祖返りしたバンドウイルカ 大隅清治 (くじらの博物館)
- ・飼育下におけるシャチのコミュニケーション音声研究 山本友紀子 (東京工業大学)
- ・トレーナー的イルカ概論 志村 博 (伊豆三津シーパラダイス)
- ・ことばを“話した”イルカ—ベルーガの人工言語研究 村山 司 (東海大学)

○申込み方法

- ・参加費: 1000円...当日, 会場にてお支払いください.
- ・下記までメールにてお申込みください (「イルカシンポ参加」と明記し, 氏名, 所属, 連絡のつく電話番号). ※携帯電話のメールからも申込みできます.
- ・受付番号を yahoo からのメールにて送信します. その番号を, 当日会場でお申し出下さい.  
※定員になり次第, 締め切ります. 当日申込みはありません. ご注意ください.  
(申込み先アドレス) 6-ceta-8@scc.u-tokai.ac.jp (締め切り 11月28日 17:00 必着)

## ●第45回OWS海のトークセッション「北極に迫る危機」

スピーカー: 柴崎壮 (NHK制作局科学環境番組部ディレクター)

NHK制作局の科学環境番組部ディレクターの柴崎氏をゲストに、柴崎氏が、1年にわたる取材を通して見えてきた、北極で起きている大変動について、お話いただきます。

開催日 12月16日(火) 19:00~20:30 (18:30 受付開始)

会場 モンベルクラブ 渋谷店 5F サロン

東京都渋谷区宇田川町11番5号モンベル渋谷ビル

地図⇒[http://store.montbell.jp/search/shopinfo/?shop\\_no=618851](http://store.montbell.jp/search/shopinfo/?shop_no=618851)

参加費 800円

協賛 オリンパス株式会社

定員 先着60名

申込み OWSホームページから事前にお申し込みください。

E-mail:[info@ows-npo.org](mailto:info@ows-npo.org) またはお電話でも承ります

(TEL:03-5960-3545 受付時間:月~金 10時~18時 祝休)

詳しくは⇒<http://www.ows-npo.org/activity/ts/index.html#45>



## ●日本サンゴ礁学会 第11回大会 公開ワークショップ

### 「やまと」のサンゴ・サンゴ礁を調べる

#### ～環境変化の指標としての高緯度サンゴ

11月22日から24日に静岡市で開催される、日本サンゴ礁学会第11回大会で、北限域のサンゴをテーマにした公開ワークショップが開催されます。

開催日 11月24日(月・祝) 16:00～18:00

会場 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ 10階  
静岡県静岡市駿河区池田 79-4

地図⇒<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jcrs/conference/2008/2008access.pdf>

参加費 無料(本ワークショップに限る)

内容 近年の様々な攪乱に対する種子島以北の高緯度域の造礁サンゴ・サンゴ礁生態系の応答評価、今後の保全・モニタリング活動のあり方などに関して、6名の発表者の発表を交えて情報交換を行う。

発表者 深見浩伸(京都大)、野村恵一(串本海中公園センター)  
岩瀬文人(黒潮生物研究所)、菅浩伸(岡山大)  
山野博哉(国立環境研)、浪崎直子(OWS)

問合せ 詳細は、OWS事務局(E-mail:info@ows-npo.org)まで。

※学会2日目の11月23日午後には『サンゴ礁再生への道』と題した一般無料の公開シンポジウムも開催されます。詳しくは日本サンゴ礁学会第11回大会ご案内をご覧ください。

⇒<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jcrs/conference/2008/2008.html>

## 【沖縄】

### ●「これでいいのか!? 泡瀬干潟埋立! サンゴの生き埋めを中止させよう」シンポジウム

日時: 11月23日(日)17:00

場所: 沖縄市産業交流センター(泡瀬漁港パヤオとなり)

内容: ラムサール会議参加報告、問題提起、意見、埋立を中止させた事例、コンサートなど

## 5. 事務局便り:

- 講演での講師派遣を希望される方は、事務局へお問い合わせください。沿岸の生物やその環境についての問題、沿岸生態系の構造、保全、再生、地球環境問題、環境教育などに関する講演を行うことができます。
- 本会へのカンパをお寄せください。口座は埼玉りそな銀行指扇支店 3896180。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定ですが、都合によって遅延や

中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。

- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や海の生き物を守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーをごらんになりたい方は事務局までご一報ください。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。

## 6. 編集後記

今年第4回目の自然観察会は、和歌山県白浜町で快晴の中、開かれました。参加者も予想を超え、講師の久保田さんと大久保さんの楽しいトークもあって、楽しめました。今年の観察会・講演会の予定はここまでですが、来年度も引き続いて各地で開催したいと思えます。ご期待下さい。

今日、那覇地裁で泡瀬干潟の埋め立てを中止させる判決が出たというニュースが飛び込んできました。久しぶりの明るいニュースです。高等裁判所でもさらに海を守る戦いは続きます。(宏)

## 7. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。会員および関心を持っていただけると思われる方にお送りしています。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。「海の生き物を守る会」の趣旨および組織の概要は会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> をごらんください。

**海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！**

**会員募集中です！**

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円/年、団体 20,000 円/年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。会員は本会の名前で各地の活動のための助成金申請をすることができます。入会希望の方は、事務局 [hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp) (向井) まで、氏名、住所、メールアドレス

スをお知らせください。

## 事務局員も募集中！

事務局を手伝っていただける人を探しています。パソコンが使える環境にあれば近くにいなくてもお手伝いいただけます。ただし、無収入ですので海の生き物の保全・保護に関心とボランティア精神のある方。

メールマガジン『うみひろも』第28号 2008年11月19日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町23-1 グリーンヒル北白川23

TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501

メールアドレス：[hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp)

ホームページURL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：埼玉りそな銀行指扇支店3896180

